

令和6年度 都城市立庄内小学校 学校評価報告書

学校経営ビジョン 多様性を理解し、良さを見つけて伸ばす教育を推進するとともに、しなやかさをもった温かみあふれる学校を構築する。重点目標として掲げた「子どもたちが主役の授業の実践」「健やかな心身の育成」「主体的な社会の形成への参画」の実現に向けて、リーダーシップを発揮するとともに、意図的・計画的・組織的に教職員の人材育成を図る。									
2 学校自己評価及び学校関係者評価 4段階評価 【4:期待以上(80～100%) 3:ほぼ期待通り(60～79%) 2:やや期待を下回る(30～59%) 1:改善を要する(0～29%)】									
	評価項目	評価内容・基準	学校の自己評価				学校関係者評価(学校運営協議会委員)		
			職員	児童	保護者	分析・考察	評価	学校評価に対する意見	
子どもたちが主役の授業の実践（学力の向上）	1 一人一台端末の活用による、基礎・基本の徹底	① タブレットやAIDリルを活用し、個別最適な学びになるようにしている	3.2	3.5	2.8	タブレットの活用場面は広がってきている。個別最適な学びにつながる効果的な活用になるようにしていきたい。	3.7	授業の中でうまくタブレットを活用している。今後も、タブレットを有効に活用してほしい。また、デメリットにも配慮が必要である。先端をいく学習で将来が楽しみである。	
		② 保護者と連携した家庭学習や学びタイム、習熟の時間の確保により学びの見届けや学びの確認を行っている。	3.1	3.4	3	学力向上には学びの見届けや学びの確認が不可欠である。家庭と協力し、学びの定着を図っていきたい。	3	家庭学習は、さらなる保護者との連携が必要である。家庭でも楽しく学んでほしい。	
	2 「わ・さ・び」を意識した授業実践	③ 話し合い活動を中心とした子どもたちが主役になる授業を行っている。	3.1	3.4	/	本校の研究に位置づけ取り組んできた。学び合う中で考えを深めることを継続していきたい。	3.3	子どもの多様性の尊重について、学校の取組として喜ばしい対応が見える。一人の「No」の意見も大切にしてほしい。	
	3 読書活動の推進	④ 図書館サポーターと連携した読書の質を高める読書活動の推進と年間貸出冊数100冊以上を目指す。	3.3	3.5	2.8	読み聞かせボランティアによる月2回の読み聞かせや図書館サポーターと連携した様々な取組が読書活動の推進につながっている。	3.9	読書に無駄は一つもなく、読書することはとてもよい。声に出して読んだり、「お薦めの図書の本」の紹介や感想文の取組等を工夫し、成果を共有してほしい。図書冊数の充実や取組、環境整備等評価できる。	
健康（体力・心身の向上）	1 体力の向上	⑤ スクールスポーツプランに沿って授業中の活動の場を工夫したり、体育的行事を活用したりして体力の向上を図っている。	2.9	3.6	2.8	スクールスポーツプランに沿って授業中の活動の場をさらに工夫する必要がある。	3.2	タブレットを使った授業や音楽を使った運動等工夫が見られる。施設・ハード面の向上が必要である。休みの日、外で遊んでいる児童を見ることが少ない。	
	2 健康的な生活リズムの育成「立腰と健康」	⑥ 学校保健委員会の取組や学級活動、保健指導、常時指導を通して、立腰が身に付くようにしている。	3.5	3	2.7	立腰を意識する児童が増えている。学校保健委員会で取り上げているが、保護者への啓発が必要である。	3	もっと保護者を巻き込んで取り組みたい。参観日に一斉に取り組む時間を設けてはどうだろうか。	
主体的な社会形成への参画	豊かな心の育成	1 「挨拶・返事・はきもの並べ」の実践化	⑦ 日常指導を通して、あいさつや会釈ができています。	3.2	3.6	3	誰に対しても自分から進んでのあいさつは十分ではない。会釈をする児童は増えてきている。	3.5	積極的であればいい。あいさつは随分できるようになってきた。人を見てあいさつの態度を変えている児童もいるので、誰に対しても同じあいさつは大切である。
			⑧ 日常指導を通して、返事ができている。	3.2	3.5	3.1	気持ちの良い「はいっ」という返事が言えるように指導中である。よかったところを誉め、できる場面を増やしていきたい。	3.7	返事もよくなってきている。大きな声で返事を返してくれると嬉しい。道で会う子は、どの子もはきはきしていてすばらしい。言われてからではなく、「はいっ」がすぐに言える学校になってほしい。
			⑨ 日常指導を通して、はきもの並べができています。	3.2	3.6	2.5	はきもの並べはよくなってきた。継続していきたい。	3.2	いつも靴箱やトイレのスリッパがきれいに並べてあり気持ちが良い。次のステップとしてボランティア活動、学校全体の美化活動を目指したい。
	地域ぐるみによる学校づくり	2 「心のプレゼント運動」の実施	⑩ 「心のプレゼント運動」では家族の目標を設定し、進んで取り組んでいる。	/	3.4	3	計画通り実施できた。今後も保護者の協力を得ながら取り組んでいきたい。	3	今後も継続的に取り組んでもらいたい。
			1 学校運営協議会の充実や学校支援ボランティア活動を通した地域人材・素材の積極的活用	⑪ より良い学校になるよう地域と連携した取組を行っている。	3.2	3.2	2.5	学校運営協議会の方々に、授業の様子、運動会を参観していただき、「学校の応援団」として貴重なご意見をいただいている。	3
		⑫ 年間指導計画に位置付けて、まちづくり協議会や学校支援ボランティアを積極的に活用している。		3.2	/	/	まちづくり協議会や学校支援ボランティアの協力により多様な教育活動を展開している。	3.2	地域の人材、支援ボランティア等の積極的な活用を今後も続けてほしい。スムーズに教育活動が展開できてよかった。
		2 学校と家庭・地域が互いに情報発信・収集	⑬ 学級通信・学校だより・HPによる情報発信とシグフィ等を利用した情報発信を積極的に行い、学校・家庭・地域の連携を図っている。	3.7	3.3	3.2	学校からの情報発信を積極的に行うことができた。HPへのアクセスも多い。	3.7	学校からの情報発信はとても積極的で大変よい。ホームページやsigfyを通じて学校のことが分かり、先生方の努力に嬉しくなった。地域への発信はとても大切である。
			3 ふるさと教育の推進	⑭ 生活科や総合的な学習の時間にふるさとへのよさに気付かせるふるさと教育を行っている。	3.2	3.5	2.8	保護者に対して、取組の紹介を積極的に行っていく必要がある。	3.2
		教職員の 人材育成		1 1人1回の研究授業による授業改善	⑮ 授業を公開することで指導力向上に努めている。	3.2	/	/	研究授業を全員実施し、「子どもが主役となる授業」を目指して取り組んできた。
2 教職員評価や宮崎県教員育成指標を活用し、役割を自覚した業務の取組による資質の向上	⑯ 教職員評価や新しい研修制度を活用した資質向上に取り組んでいる。		3.1	/	/	校内研修や校外研修に積極的に参加し、資質の向上に取り組むことができた。	3.7	先生一人一人の強みを生かした授業が評価できる。	